

臨床検査科・病理診断科

眞能正幸

1.概況

臨床検査部門は『精度保証されたデータを迅速に提供すること』を使命とし、採血から結果報告までが臨床検査の精度管理の方針のもと、臨床検査の国際規格である ISO15189 取得を目指してきた。今回、平成 26 年 11 月 13 日国内第 86 番目の認定施設として登録された。

二交替勤務, 輸血管理当直をはやくより導入し休日・夜間を含む 24 時間の緊急検査, 輸血管理に対対応している。

スタッフは医師 3 名と臨床検査技師 40 名、検査助手 3 名で運営している。

・各部門について

外来検査部門：

6 個のブースと別に車椅子用ブースを設け、外来での採血を実施している。採尿室に隣接した外来検査室で検尿、便潜血、穿刺液（髄液、胸腹水等）の検査、原虫や虫卵検出等を中心に検査している。入院患者の翌日採血予定分の採血管を前日に準備し、各病棟へ搬送している。

総合検査部門：

血液をはじめとした体液中の成分を各分析機で検査している。緊急検査は 30 分、至急検査や診察前検査は 60 分を目途に診療科に報告している。治験検体の処理や保管も実施している。輸血血液製剤の一元化管理を行い、輸血療法委員会へ情報を提供し血液製剤の有効利用に努めている。

微生物検査部門：

臨床検体からの通常の細菌検査業務の他にインフルエンザウイルスなどの迅速抗原検査、結核菌、HCV、HBV および HIV のリアルタイム PCR 法による高感度測定や、遺伝子解析検査として、HIV 薬剤耐性遺伝子解析や MRSA の遺伝子型（POT 法）の検出をしている。これらの情報は耐性菌週報として院内に発信するとともに、ICT 会議や ICT ラウンド資料として院内感染防止に貢献している。

病理検査部門：

術中の迅速病理診断や迅速細胞診、100 種以上の抗体を備えた免疫染色により症例に応じた治療法の選択に貢献している。高度な専門的病理診断に対応するため 4 名の病理専門医を招聘している。

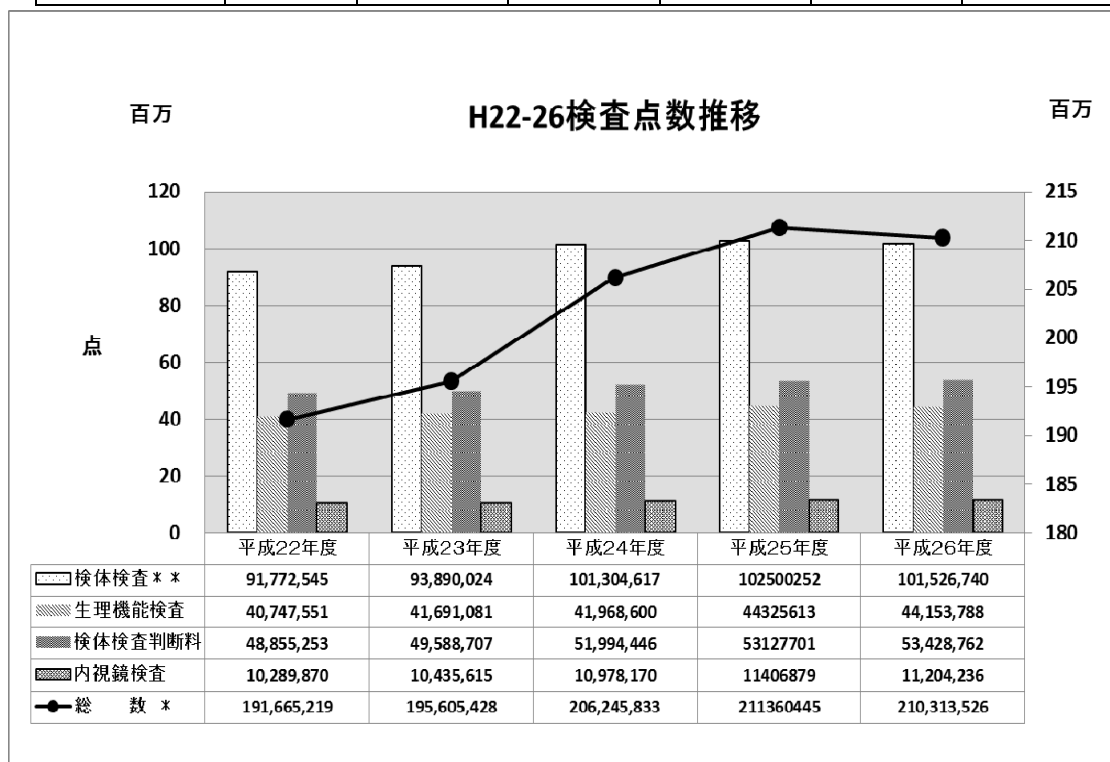
生理検査部門：

患者さんから直接生体信号を調べる部門である。循環器系、呼吸器系、消化器系、神経系や聴覚系等の分野の検査を実施し、またエコーセンターとして各診療科の超音波検査の受付を一括して行っている。

2. 活動報告

各種の外部精度管理調査（日本医師会、日本臨床衛生検査技師会、大阪府医師会）に参加している。一例として日本医師会主催の臨床検査精度管理調査の成績（過去6年間）を示す。

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価点	97.6	99.2	99.8	99.8	99.7	98.8



臨床検査科として、ISO15189 認定（RML00860）、日本臨床検査医学会（No.101）、日本輸血・細胞治療学会（No.185）、日本臨床細胞学会（No.466）などの施設認定、さらに日本臨床衛生検査技師会の精度保証施設認証（No.140137）承認、認定臨床微生物検査技師研修認定施設（No.201203）を取得している。また、細胞検査士（5名）、超音波検査士（3名）、認定輸血検査技師（4名）、認定臨床微生物検査技師（1名）および感染制御認定臨床微生物検査技師（1名）の認定技師が在籍している。

3. 今後の課題と目標

世代交代による人材育成が急務であり、認定資格取得を含め学術的・技術的向上に努めている。一方では、各種臨床病理カンファレンス（乳腺腫瘍、呼吸器腫瘍、皮膚科疾患、肝生検、肝胆膵腫瘍、骨軟部腫瘍等）を定期的を実施して病理診断や臨床診断・治療の質の向上に努めている。さらには、職員研修部との共催で月1回のCPCを実施し、若手臨床医の教育にも貢献している。

チーム医療の推進に積極的に関わり、患者さんへの SMBG 機器の仕様説明や、糖尿病教室、NST（栄養サポートチーム）、肝臓病教室、ICT（感染対策チーム）での患者指導・情報提供・ラウンド等に参加し、さらに、今後は ISO15189 認定施設としてマネジメントシステムに沿って運営することで施設診療機能、治験業務の向上に貢献する。

（文責 渡久地 政茂・眞能 正幸）

【2014 年度研究発表業績】

A-0

Kumagai K, Yamamoto N, Miyashiro I, Tomita Y, Katai H, Kushima R, Tsuda H, Kitagawa Y, Takeuchi H, Mukai M, Mano M, Mochizuki H, Kato Y, Matsuura N, Sano T. Multicenter study evaluating the clinical performance of the OSNA assay for the molecular detection of lymph node metastases in gastric cancer patients. *Gastric Cancer* 2014; 17(2): 273-80 (2014 年 4 月)

Katano H, Hishima T, Mochizuki M, Kodama Y, Oyaizu N, Ota Y, Mine S, Igari T, Ajisawa A, Teruya K, Tanuma J, Kikuchi Y, Uehira T, Shirasaka T, Koibuchi T, Iwamoto A, Oka S, Hasegawa H, Okada S, Yasuoka A. The prevalence of opportunistic infections and malignancies in autopsied patients with human immunodeficiency virus infection in Japan. *BMC Infect Dis.* 2014; 14: 229 (2014 年 4 月)

Ikeda Y, Zaima N, Hirano K, Mano M, Kobayashi K, Yamada S, Yamaguchi S, Suzuki A, Kanzaki H, Hamasaki T, Kotani J, Kato S, Nagasaka H, Setou M, Ishibashi-Ueda H. Coronary triglyceride deposition in contemporary advanced diabetics. *Pathology International* 2014; 64(7): 325-335 (2014 年 7 月)

Mori K, Kitazawa R, Kondo T, Mori M, Hamada Y, Nishida M, Minami Y, Haraguchi R, Takahashi Y, Kitazawa S. Diabetic osteopenia by decreased β -catenin signaling is partly induced by epigenetic derepression of sFRP-4 gene. *PLoS One.* 2014;9(7):e102797 (2014 年 7 月)

Yajima K, Uehira T, Otera H, Koizumi Y, Watanabe D, Kodama Y, Kuzushita N, Nishida Y, Mita E, Mano M, Shirasaka T. A case of non-cirrhotic portal hypertension associated with anti-retroviral therapy in a Japanese patient with human immunodeficiency virus infection. *Journal of Infection and Chemotherapy* 2014; 20(9): 582-585 (2014 年 9 月)

Okita Y, Nonaka M, Shofuda T, Kanematsu D, Yoshioka E, Kodama Y, Mano M, Nakajima S, Kanemura Y. (11)C-methinine uptake correlates with MGMT promoter methylation in

nonenhancing gliomas. *Clinical Neurology and Neurosurgery* 2014; 125: 212-216 (2014 年 10 月)

Ogawa Y, Watanabe D, Hirota K, Ikuma M, Yajima K, Kasai D, Mori K, Ota Y, Nishida Y, Uehira T, Mano M, Yamane T, Shirasaka T. Rapid multiorgan failure due to large B-cell lymphoma arising in human herpesvirus-8-associated multicentric Castleman's disease in a patient with human immunodeficiency virus infection. *Internal Medicine* 2014; 53(24): 2805-2809 (2014 年 12 月)

Yamamoto Y, Nishisaki H, Koma Y, Sawai H, Sakai A, Mimura T, Kushida S, Tsumura H, Sakamoto T, Tobimatsu K, Miki I, Sakuma T, Tsuda M, Mano M, Hirose T, Inokuchi H. Polypoid leiomyosarcoma of the esophagus treated by endoscopic submucosal dissection. *Digestive Endoscopy* 2015 Jan 19. [Epub ahead of print] (2015 年 1 月)

A-3

福田泰也、西川和宏、神澤真紀、山本和義、平尾素宏、原田百合奈、前田栄、原口直紹、三宅正和、浅岡忠史、大宮英泰、宮本敦史、池田正孝、高見康二、児玉良典、眞能正幸、中森正二、関本貢嗣 : 切除断端陽性追加胃全摘術後に晩期再発した胃癌の 1 例「癌と化学療法」41(12) : P. 2408 - 2410 、2014 年 11 月

松井浩史、大宮英泰、高見康二、三嶋秀行、伴健二、児玉良典、栗山啓子、関本貢嗣 : 卵巣顆粒膜細胞腫術後 11 年目に行った肺転移切除。「胸部外科」2014 ; 67(10) : 904-907 (2014 年 9 月)

(総説 (邦文著述 (学会誌・学術専門誌)))

廣田和之、森 清 : 連載 エイズに見られる感染症と悪性腫瘍 (12) サイトメガロウイルス感染症。「化学療法の領域」2014 ; 30(10) : P.4(1836)-15(1847) (2014 年 10 月)

A-4

山本 賢 : 移植における HLA 抗体検査。「臨床検査」2014 ; 58 : 567-573、(2014 年 5 月)

Nakazuru S, Matsumura Y, Harada Y, Iwasaki R, Iwasaki T, Nishio K, Hasegawa H, Sakakibara Y, Yamada T, Nishikawa K, Ishida H, Mori K, Mita E. Simultaneous Large Cell Neuroendocrine Carcinoma and Adenocarcinoma of the Stomach: A Case Report and Literature Review. 12th Annual Conference for the Diagnosis and Treatment of Neuroendocrine Tumor Disease, Barcelona, Spain, 2015 年 3 月

B-2

Konishi E, Nakashima Y, Mano M, Tomita Y, Yanagisawa A. Clinicopathological Prognostic Factors of Primary Central Chondrosarcoma: Analysis of 182 Cases by Numerical Score on Histology 2015 United States & Canadian Academy of Pathology Annual Meeting, Boston, USA (2015年3月)

B-3

高見康二、大宮英泰、小河原光正、栗山啓子、眞能正幸、中森正二、関本貢嗣：肺癌手術における肺切除マージン洗浄細胞診に関する検討。第55回日本肺癌学会学術集会、京都、2014年11月

木下幸保：アシネトバクターの細菌学的診断の諸問題。第68回国立病院総合医学会、横浜、2014年11月

B-4

神澤真紀、児玉良典、森清、梅原徹、森康輔、眞能正幸：脳室内出血で発症した甲状腺濾胞癌脳室転移の1例。第103回日本病理学会総会、広島、2014年4月

山本賢、富田加奈江、古屋晃子、新田幸一、井上信正、眞能正幸：不規則抗体検査における酵素法の必要性。第62回日本輸血・細胞治療学会総会、奈良、2014年5月

児玉良典、埜中正博、神澤真紀、森清、眞能正幸：小児膠芽腫の一例。第32回日本脳腫瘍病理学会学術集会、徳島、2014年5月

八十島宏行、増田慎三、田中希世、田口裕紀子、増田紘子、水谷麻紀子、栗山啓子、森清、児玉良典、眞能正幸、中森正二、関本貢嗣：HER2陽性乳癌における縮小手術の可能性。第22回日本乳癌学会学術総会、大阪、2014年7月

田口裕紀子、増田慎三、増田紘子、八十島宏行、水谷麻紀子、森清、児玉良典、眞能正幸、中森正二、関本貢嗣：安全な乳癌腋窩郭清省略に向けた試み。第22回日本乳癌学会学術総会、大阪、2014年7月

八十島宏行、増田慎三、田中希世、田口裕紀子、増田紘子、水谷麻紀子、栗山啓子、森清、児玉良典、眞能正幸、中森正二、関本貢嗣：術前化学療法後MRI画像評価における縮小手術の可能性。第53回日本癌治療学会学術集会、横浜、2014年8月

大宮英泰、高見康二、中森正二、関本貢嗣、栗山啓子、眞能正幸：c I 期非小細胞肺癌手術における術前 FDG-PET に関する検討。第 55 回日本肺癌学会学術集会、京都、2014 年 11 月

秦直也、津田健治、河西千鶴、植田萌、高木景城、糸山光麿、渡久地政茂、森田剛平、森清、児玉良典、眞能正幸：胸水セルブロックにより確定診断が得られた悪性胸膜中皮腫の一例。第 68 回国立病院総合医学会、横浜、2014 年 11 月

吉田智子、幸山佳津美、西田美佳、植草久美、岡田 恵、峠田 孝、舩坂裕久、三浦恵子、伊藤恵里子、阪本裕子、木村陽子、玄 富翰、永野恵子、渡久地政茂、眞能正幸：頸動脈超音波検査で plaque の多彩な形態変化を経時的に捉えられた一例。第 68 回国立病院総合医学会、横浜、2014 年 11 月

B-6

中下裕美 奈須正人 松延大樹 新田幸一 渡久地政茂 眞能正幸：LABOSPECT008 による $\beta 2$ マイクログロブリンの基礎的検討。第 41 回国立病院臨床検査技師協会近畿支部総会、大阪、2014 年 6 月

植田 萌：テーマ別スライドカンファレンス 唾液腺。第 40 回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会、奈良、2014 年 10 月

秦 直也、津田健治、糸山光麿、山本 賢、高木景城、植田 萌、児玉良典、森 清、眞能正幸：細胞診で胎児型腺癌成分を認めた肺芽腫の 1 例。日本臨床細胞学会大阪支部第 40 回学術集会、高槻、2015 年 2 月

植田 萌：ロシュ社ベンタナ NX-SS での自動特殊染色。第 29 回大阪病理技術研究会、大阪、2015 年 2 月